

府中一新、日本一新。

府中の元気

フリーダムネット

発行:市民フォーラム 〒183-0051 府中市栄町 2-14-21

No.43 2011.4

被災地へ救援物資を届け、現場を見る

緊急支援 特別号



組織的に支援の流れをつくることは大切 ただ、すき間を埋めるのも政治の仕事

■ 今そこにいる人を、助ける。

福島県いわき市の方が府中の知人を頼って被災地の現状を訴えに来られました。避難所には物資が集まっているが、周辺には物資がない、トイレも流せない、原発に近い「いわき」には誰も近づかない、ということをぜひ東京の人にも知ってもらいたいという必死の訴えでした。

私は考えました。ここで自分が物資を集めて運んだとしてもたかが知れども、東京都で一元的に集めるに任せるべきか。現地のニーズと合わせず、物資が余るリスクもある。いずれ、行政組織による支援が行きわたるはずだ、と。

しかし、ごく一部であったとしても、いまそこにいる人を助けるのが政治だ。行政が負えないり

■市民からお預かりした主な物資

- ・食品…水、お茶、米、缶詰、しょうゆ
- ・子供用品…子供用オムツ、離乳食、ミルク、子供服、絵本、マンガ、おもちゃ
- ・介護用品…大人用オムツ、尿取りパッド
- ・衣料品…下着、クツ下（以上新品）、クツ、作業着、防寒着、セーターなど
- ・生活用品…トイレットペーパー、ティッシュ、歯ブラシ、歯みがき粉、石鹼

■お届け先（福島県いわき市）

- ・特別養護老人ホーム「はなまる共和国」
- ・特別養護老人ホーム「翠祥園」の避難先
- ・船戸団地
- ・避難所（高久小学校）

スクを負うべきは政治だ。組織が動き出すまでの数日間を埋めるために「すぐに動く」のが政治だ、と考え、現地に行くことを決断しました。

わずか3日間の呼びかけでしたが、多くの方のご協力で、ワゴン車2台に積みきれない救援物資が集まりました。人々の想いを強く感じました。その想いを載せて、3月28日、民主党府中の木村・渡部両氏とともに、現地へ。



■ 下着が嬉しい、トイレが流せない

特養 2 施設では、「初めの 1 週間は物がなく非常に困った。」「3 日前から行政支援、従来の業者ルートも入り初め、オムツなどは充実してきた」「競輪場に物資の集積拠点があり、相当集まっているようで、そこに要請すれば物が届く」ということでした。ただ、女性職員が多く、下着が非常に喜ばれました。

一方、船戸団地は、施設でないので物資が届かないという状況でした。「遠いスーパーを何時間もかけてハシゴしなければならないので、とても助かる」と喜ばれました。「息子たちは避難したよ。トイレが流せないので農家から水をもらってきた」といって、濁った水を積んだ自転車を重そうに押しているおばあさんもいました。

高久小学校は沿岸部の人たちの避難先で食料のほか、子供用品が喜ばれました。おもちゃも「退屈しているので喜びます」とのことでした。古着は行政ルートでは



敬遠されるので余るかもしれないという心配がありましたが、古着もここですべてなくなりました。

その後、沿岸部の小名浜を視察しましたが、船や車がまだ散乱しており、市場や観光案内施設、ホテルの前に瓦礫が集められていました。信号は消え、水も出ず、港周辺は当分機能しないという状況でした。帰り道に通った北茨城市の大津港は、集落が港から近く、木造の古い住宅が軒並み倒壊していました。



■ 積極的に、東北の物を買いましょう。

いわき市では水道が半分は復旧したといいます。いずれ、船戸団地でも復旧するでしょう。国も支援して、沿岸部の瓦礫も撤去されるでしょう。しかし、いまゼロに近い生産力を国の支援だけで回復することはできません。

物資や義捐金を集め、節電に努めている私たちが、その次にできることは何か。ぜひ、正確な情報を得て、東北の产品・製品を積極的に買い、力を合わせて復興を助けましょう。

